

食の安全「基本のお話」

—第94回—

2 食糧と
平に



■SDGsと食の安全 — 飢餓をゼロに —

2015年、国連は、2030年までに人々の生活を改善するために、17の目標からなる「持続可能な開発目標（SDGs）」を採択しました。その2番目に掲げられている目標が「飢餓をゼロに」です。

○世界には、子どもたちに栄養のある食べ物を与えられない親がたくさんいます。

すべての人が食べるのに十分な食料が生産されている一方で、8億1,100万人がいまだに毎晩空腹を抱えたまま眠りについています。3人に1人が何らかの栄養不良に苦しんでいるのが現状です。



国連世界食糧計画
ホームページより

○食の安全の大前提フードセキュリティ（食品の安定供給）

食の安全は、まず量的に十分な食料を安定的に確保できた上で、食品の安全性確保のための衛生管理等の取り組みフードセーフティが行われ、さらに、第三者から加えられる意図的な危害を防ぐフードディフェンスを実施することで実現できます。

いずみ市民生協の食品安全プログラムは、フードセーフティとフードディフェンスのためのしくみです。

<食の3つの安全>

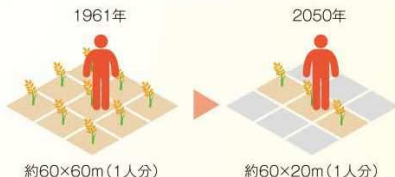
- ・フードセキュリティ（食品の安定供給）
- ・フードセーフティ（食品の安全性確保）
- ・フードディフェンス（第三者からの危害防止）

○今後、安定的な食料生産をおびやかす要因が予測されています。

◎今後、世界人口は増加します。



◎1人分の食料生産に使える農地や水資源が減少します。



◎気候変動により、栽培環境の悪化や大規模災害による被害が多発します。

地球温暖化



気温上昇により果樹などの栽培適地が変化。
高温による品質低下も懸念。

◎それに加え日本では農業従事者がさらに減少します。



農業者の高齢化が進行。
令和元年時点で65歳以上が約7割、
49歳以下は約1割という状況。

○これらの課題を解決し、持続可能な食料生産を実現するには、 生産技術の進化と活用が必要不可欠です。

- ◎スマート農業の導入や養殖技術の進化
- ◎バイオテクノロジーを活用した農産物や養殖魚の品種改良
- ◎作られた作物・食品の保存や輸送、衛生管理技術の進化

<私たち消費者ができること> 世界の食糧事情や生産者・研究者の努力を知ること、
日常生活で、食品をムダにしない努力をすることだと考えます。

